

能楽研修発表会

第27回 春月翔入云

令和4年

3月15日火

午後1時開演(正午開場)

全席指定

※字幕表示はありません。

※新型コロナウイルス感染予防への対策に、ご理解とご協力を
をお願いいたします。詳細はホームページをご覧ください。

舞囃子【喜多流】桜川

シテ

谷

友矩

笛

熊本俊太郎

小鼓

清水

和音

大鼓

亀井

洋佑

狩野

祐一

友枝

塩津

圭介

佐藤

寛泰

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

今井

泰行

亘

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

田崎

甫

地謡

金森

隆晋

柿原

高橋

辰巳満次郎

高橋

賢郎

寺田

林太郎

笛

能楽研修発表会

第27回 青翔会

青翔会は、国立能楽堂能楽（三役）研修生をはじめとする若手能楽師の技能研鑽のための公演です。次代を担う若手能楽師たちが、日頃の稽古の成果をご披露するため、懸命に舞台を勤めます。

皆様のあたたかいご声援をお待ち申し上げております。

舞囃子 桜 川

舞囃子 羽 衣

能 高 砂

人買い商人に買われていた我が子の桜子を探し求め、母親は物狂となつて常陸国桜川にたどり着きます。折しも桜の季節、雪のように舞い散る桜の下、母親の嘆きは深まるばかりでした。

母親が、桜花に我が子を重ね、散る花を惜しんで、切々と舞う「網の段」が見どころです。

三保の松原に釣りに来た漁夫の白龍は、松の枝に美しい衣がかかるつているのを見つけ、持ち帰ろうとします。そこに天人が現れ、衣を返して欲しいと頼みますが、白龍は返そうとしません。

衣がなければ天に帰れない。天人の嘆きを聞き、白龍は舞を見せてくれたら衣を返すといいます。天人は喜び、優雅な舞（序ノ舞）、「破ノ舞」を舞うと天に帰つて行きます。

播磨国・高砂の浦を訪れた阿蘇宮の神主友成ら一行の前に、簫で松の木を清める老夫婦が現れます。二人は、高砂・住吉と離れた場所にありながら心を通わせる相生の松の故事を語ります。やがて、自分たちはその相生の松の精であると正体を明かした老夫婦は、舟に乗つて沖へと去つていきます。

浦人から相生の松について聞かされた友成らは、老夫婦を追うように舟を出して住吉に着きます。そこに現れた住吉明神は、「神舞」を爽快に舞い、現世の繁栄や万民の平安を祝ぐのでした。

夫婦和合・国土安穏と和歌の繁栄を中心とする本曲は、その祝言性ゆえに、古くから数多く上演されてきました。神体が主人公となる「脇能」の代表作です。

琴の名手でもあつた小督は帝の寵愛を一身に受けていましたが、平清盛を恐れて身を隠しています。帝の命令で小督を探す源仲国は、琴の調べを頼りに、小督の住家を見つけ出します。

そこで、小督の帝への想いを聞いた仲国は、名残を惜しむ酒宴の席で「男舞」を舞います。

太郎冠者は、主の命令で都まで宝くらべの宝を求めてやつてきます。そこに現れたすっぱが、太鼓のバチを打ち出の小槌とたばかって、言葉巧みに売りつけました。

主の元へ戻つた太郎冠者は、すっぱに言われた通りにして、主が望む馬を出そ

入場料金
(全席指定)

正面／1,500円 脇正面／1,000円 中正面／700円

学生：脇正面／700円 中正面／500円

※障がいの方は2割引きです。詳細はチケットセンターまでお問い合わせください。

発売日

電話・インターネット予約開始／2月8日(火) 午前10時より

窓口発売開始／2月9日(水) 午前10時より

(チケット発売 前午10時～午後6時) ※窓口販売用に別枠での取り置きはございません。

電話

国立劇場 チケットセンター (午前10時～午後6時)
0570-07-9900 03-3230-3000 [一部IP電話等]

インターネット

国立劇場チケットセンター

検索

●プレイガイド=チケットぴあ <https://t.pia.jp/>
e+(イープラス) <https://eplus.jp/>

主催：独立行政法人日本芸術文化振興会

国立能楽堂

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1
TEL. 03-3423-1331 (代)
<https://www.ntj.jac.go.jp/nou.html>

令和4年
3月15日火

午後 1 時開演

(正午開場、午後4時10分頃終演予定)

全席指定

※字幕表示はありません。
※新型コロナウイルス感染予防への対策に、ご理解とご協力ををお願いいたします。詳細はホームページをご覧ください。



お願い

●出演者などの変更の場合にはご了承ください。●駐車場がございませんので車でのご来場はご遠慮ください。●開演中は、時計等のアラームや携帯電話の電源をお切りください。●開演中の写真撮影及び録音・録画は固くお断りいたします。